

# 奥能登の風光

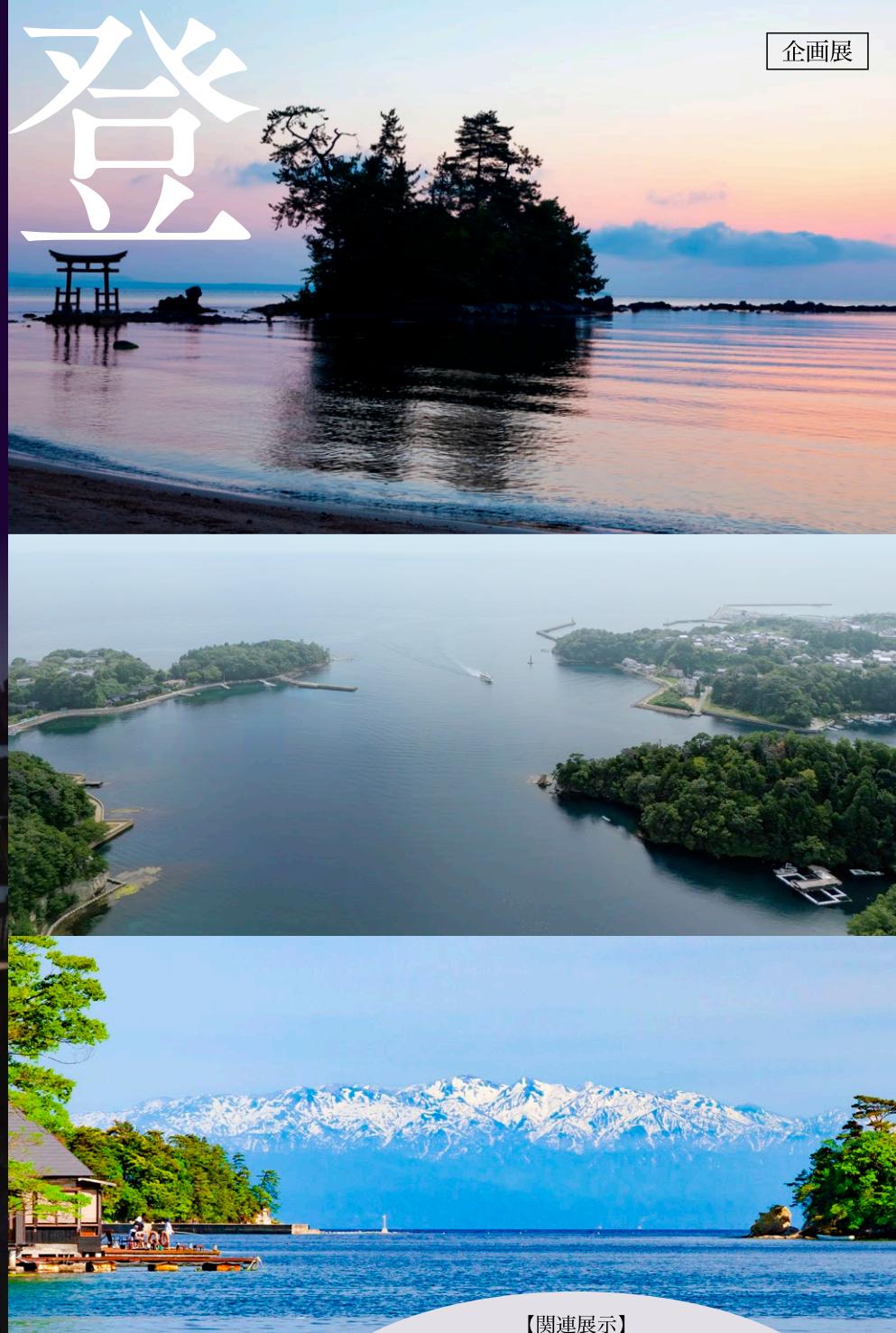
故郷を思う私の気持の基礎になっているのは、文明や文化の毒に災いされずにまだ多く残っている、古代的な（という意味は原日本的な）風光の跡である。

（西谷啓治「奥能登の風光」より）

# 風光



西谷啓治（西田幾多郎書斎「骨清窟」にて）（推定：昭和 52（1977）年）



## 【関連展示】

企画展期間中、展示室 1 内の iPad コーナーにて、  
西谷啓治の講演音声をお聞きいただけます。

- 講演①西田幾多郎先生の学問  
テーマ（昭和 52 年 6 月 7 日、第 33 回寸心忌記念講演会／金沢会場）  
②西田幾多郎先生のお人柄  
（昭和 52 年 6 月 7 日、第 33 回寸心忌記念講演会／宇ノ気会場）  
※いずれも講演録は『点から線へ』23 号に収録

2024 年 10 月 1 日（火）～2025 年 3 月 23 日（日）

展示協力：能登町教育委員会

講 演 会 ① 2024 年 11 月 30 日（土）13:30～15:30

**「家郷」の現代と「地上のものならぬ」** 場所

—西谷啓治による「風景」と「風光」の二重世界—

西谷の随想「奥能登の風光」は、50 年前の能登の土地開発に向けたメッセージです。震災後、再び読む意味を考えます。

講師・市川秀和（福井工業大学教授）／哲学ホール



石川県  
**西田幾多郎記念哲学館**

Ishikawa NISHIDA KITARO Museum of Philosophy

〒929-1126 石川県かほく市内日角井 1

TEL(076)283-6600 FAX(076)283-6320

URL <https://www.nishidatetsugakukan.org/>

E-mail nishida-museum@city.kahoku.lg.jp

■facebook / Instagram でも関連情報を随時更新しています。



観覧時間 ■ 9:00～17:00（入室は 16:30 まで）

休 館 日 ■ 月曜日（祝日の場合は翌平日）、年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）

観 覧 料 ■ 一般 300円（団体 250 円・20 名以上）／高齢者（65 歳以上）200円

／高校生以下無料 障害者手帳をお持ちの方および介助者 1 名無料

交通アクセス

【車 利用】北陸自動車道〔金沢東 IC〕→国道 159 号線（約 20 分）

のと里山海道〔白尾 IC〕（約 5 分）

【JR 利用】金沢駅→いしかわ鉄道線・七尾線（約 25 分）→宇野気駅→

徒歩（約 20 分）→哲学館



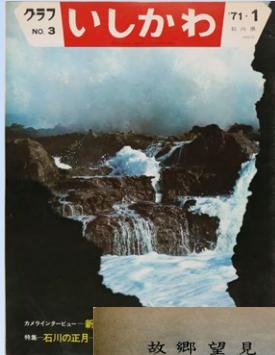
# 奥能登の風光

2024年  
10月1日(火)  
2025年  
3月23日(日)

うしお  
西田幾多郎の教え子で、石川県能登町宇出津出身の哲学者、  
西谷啓治（1900－1990）。その生涯のうち、実際に奥能登に住み、過ごした時間は短いものでしたが、故郷をこよなく愛し、度々足を運んでいました。

令和6年元日に発生した地震により、その奥能登の風光も大きく変化しました。故郷の風光が護持されることを願った西谷がこの災害に直面していたとしたら、どのように感じ、どのような言葉を紡いだでしょうか。

西谷が残した言葉を通して、これから能登のこと、それぞれの「ふるさと」のことを考える契機となれば幸いです。



『グラフィックいしかわ』第3号  
1971年1月

「奥能登の風光」初出

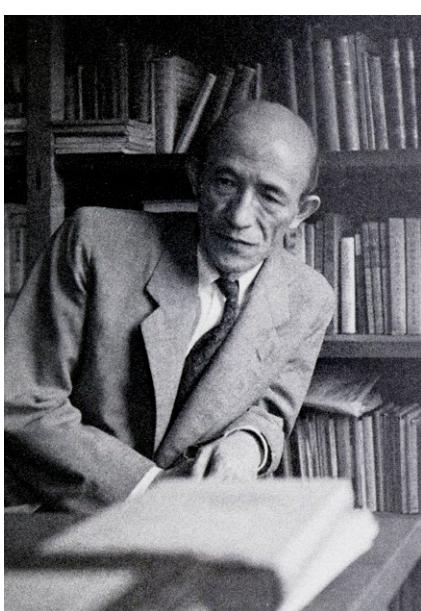


(西谷啓治「奥能登の風光」より)



九十九湾より望む立山連峰

バスは松波から小木に向けて波打ち際を走っていた。好く晴れた天気で、雲がない五月の空は青く澄み、海も明るい紺碧の色を湛えていた。そしてその海の向こうに、雪をかぶつた立山山脈の尾根が、半天に蜿蜒と連なっているのが見えた。尾根から下の部分は、青く霞んで見えず、尾根の部分だけが青空のうちに夢のように淡く浮かんでいた。その山と海と空と、それら全体の風景は、やはり地上のものとは思えない神秘な美しさであった。中国の伝説には、蓬萊山とか桃源郷とかいうような、神仙の住む土地の幻想があり、似たような神話的幻想は、古代ギリシアその他にもあったが、それが忽然として現実に現われたようを感じてあつた。



## 西谷啓治

明治33（1900）年、現在の石川県鳳珠郡能登町宇出津に生まれる。幼少期を奥能登で過ごし、明治39（1906）年に一家で東京へ移住。第一高等学校在学中に西田幾多郎の『思索と体験』と出会い、哲学の道を志す。京都帝国大学文学部哲学科へ進学し、西田幾多郎に師事。同学年には戸坂潤、一学年上に高坂正顕、木村素衛がいる。昭和12（1937）年から2年間、ドイツ・フライブルク大学に留学し、マルティン・ハイデッガーの講義や演習に参加。当時同じくドイツに留学していた西田幾多郎の姪・高橋ふみとも交流する。帰国後は、京都帝国大学文学部教授を務め、昭和38（1963）年定年退官。昭和46（1971）年3月まで大谷大学教授。ドイツやアメリカでも客員教授を務めた。勲二等瑞宝章、ゲーテメダル・金賞を受賞。文化功労者。平成2（1990）年11月24日、京都市左京区吉田の自宅で逝去、享年90歳。同日付で正四位勲二等旭日重光章を受章。

### ◆主な著作

『根源的主体性の哲学』（1940）、『ニヒリズム』（1949）、『宗教とは何か——宗教論集I』（1961）、『西田幾多郎——その人と思想』（1985）、『禅の立場——宗教論集II』（1986）など